

## 砂川一郎氏にIOCG特別功労賞

遠藤 祐 二<sup>1)</sup>

元地質調査所鉱床部長で東北大学名誉教授の砂川一郎博士は、2007年8月、結晶成長国際機構 (International Organization for Crystal Growth, IOCG) の特別功労賞 (IOCG Distinguished Service Award) を受賞されました。

IOCGには表彰制度として、フランク賞とローディス賞があり、それぞれIOCG草創期の会長であったFrank教授とLaudise博士を記念して設けられました。前者には主として基礎分野で、後者には応用分野で優れた業績を挙げた研究者が選ばれ、3年ごとに開催される結晶成長国際会議 (International Conference on Crystal Growth, ICCG) の場で授与されます。

これとは別に、結晶成長の分野での永年に亘る不断の貢献を顕彰しようとするのが特別賞の主旨で、これまでの受賞者は1995年のMichael Schieber教授がただ一人です。IOCG 40年の歴史の中で砂川教授は12年ぶり二人目の栄誉に輝き、去る8月12-17日に開かれた第15回会合 (ICCG-15, Salt Lake City, USA) での受賞となりました。

受賞理由を記した賞状は、「国際結晶成長コミュニティへの情熱的貢献」を讃え、「特に夏の学校“Hodankai”を組織し15年に亘って校長を務め、若い世代への結晶成長機構の理解を促進し、結果は日本だけにとどまらず世界中に理論と実験の両面での成果の増大をもたらした」ことを大きく評価しています。

賞状に表れる“Hodankai”とは「放談会」のことで、砂川先生の発案で始まった「結晶成長討論会」の通称です。当初の放談会は定期制・長期性を意識するものではありませんでしたが、いつしか大規模に恒例化されて、国際的にも横文字標記で通用する会合にまで発展したわけです。この間、放談会はその時々々の結晶成長に関するトピカルなテーマを掲げ、基調講

演とそれにまつわる自由な討論を柱に、多くの若手研究者を育成する恰好の場となってきました。先生は15年に亘って放談会を精力的に主催し、若手同志の熱の入った討論を暖かく見守り、時には自らも積極的に参加して、その場の雰囲気を楽しんでおられました。

砂川先生は東北大学理学部岩石鉱物鉱床学教室をご卒業、当時の通商産業省工業技術院地質調査所に入られ、少年期から興味を惹かれていた鉱物が持つ結晶の形の研究に着手なさいました。特に同一鉱物が示す様々な形 (晶相変化) に注目し、黄鉄鉱、方解石、黄銅鉱などの晶相変化を系統的に解明しました。その過程で結晶の形は結晶が成長した結果であることを確信し、以降天然および人工鉱物の結晶成長機構の研究に力を注ぐこととなりました。

地質調査所の鉱床部長から母校鉱物学講座の教授に迎えられた砂川先生は、正に水を得た魚のごとく、結晶成長の研究と教育に打ち込んでこられました。常々「結晶成長の発展には理論と実験の相互理解が不可欠」とお考えだった先生は、着任早々に持論を実践するべく先に触れた放談会を立ち上げることになりました。記念すべき第1回放談会は、学習院大学の大川章哉教授をお迎えして、蔵王山麓の青根温泉こまくさ荘で催されました。大川教室の理論と砂川教室の実験とがお互いの垣根を取り払い、自由闊達な交流を行える場がここに実現したのです。大川先生の柔らかな語り口と砂川先生の威勢のよい口調とが交差する中で、参加者の熱の入った討論は夜遅くまで尽きませんでした。総勢30名前後が大広間の畳に車座になっての集まりはあたかも修学旅行か合宿のようで、真剣かつ和やかな会の雰囲気は忘れられません。この会が後にHodankaiとして世界的に知

1) 元所員 地質標本館客員研究員

キーワード：砂川一郎、結晶成長国際機構 (IOCG)、IOCG特別功労賞、放談会

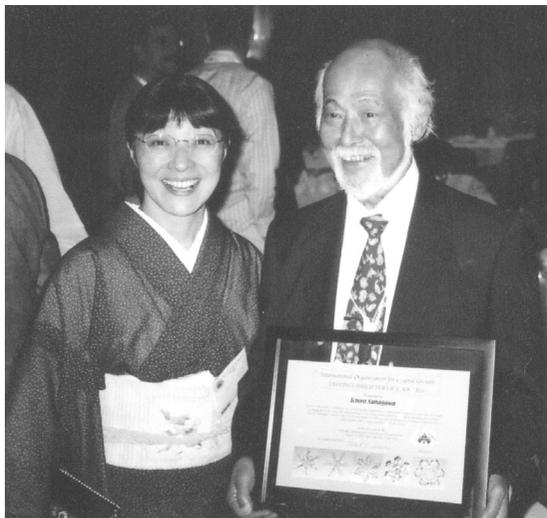


写真1 賞状を手にする砂川先生とお嬢様の尚美さん。

られるようになろうとは、その時には夢にも考え及ばないことでした。

東北大学をご退官後の先生は山梨県立宝石美術専門学校の校長を最近までお務めになるなど、広く地球科学・物質科学の分野での研究・教育に携わら

れ、そのご活躍ぶりは今なお止まるところを知らません。先生のお仕事で特筆されるべきは圧倒的な著作物の量にあると言えるでしょう。学术论文はもとより、例えば本誌(地質ニュース)に載るような解説・啓蒙記事にも積極的に筆を執られ、その数は諸々合わせて優に4桁に達していると思われまふ。名著「ダイヤモンドの話」(岩波新書)を始めとする教科書・解説書も数多く、先生の知識の豊かさや筆の速さには、ただただ驚嘆するばかりです。

砂川先生のご業績については今さら筆者がこの上の拙文を連ねるまでもなく、日本地質学会賞から勲三等旭日中授章に至るまでの数々の表彰が雄弁に物語っています。その中にあっても、砂川先生にとって一番嬉しかったのは今回の受賞ではなかったか、と密かに思っているのは筆者だけでしょうか。

#### 参 考 文 献

Science Direct (2007) : ICG Distinguished Service Award to Prof. Ichiro Sunagawa. *J. Cryst. Growth*, 305, 1-2.

砂川一郎 (2007) : 結晶成長学半世紀の歩み-IICG Distinguished Service Award受賞にあたって-. *結晶成長*, vol.34, 159-166.

---

ENDO Yuji (2008) : IICG Distinguished Service Award to Prof. Ichiro Sunagawa.

---

<受付: 2007年11月16日>